

与那国島の祭場と儀礼

大 城 學

(沖縄県立博物館)

Religious Service Sites and Ceremonies of Yonagunijima Island

Manabu OHSHIRO

(Okinawa Prefectural Museum)

はじめに

与那国島のさまざまな民俗事象のなかから、祭場と儀礼をとりあげてみたい。具体的に、祭場は①ウガン（御嶽）、②トゥニ（マチリトゥニ）、③ビディリの3つをとりあげる。儀礼は村落レベルの年中行事をとりあげる。

I. 祭 場

[1] ウガン

与那国島では、御嶽のことをウガン（ガ行は鼻濁音）という。ウガンは島内に13ある。①トゥヤマウガン、②ティウガン、③トゥマイウガン、④ヌックウガン、⑤ウヤバルウガン、⑥アラガウガン、⑦ナウンニウガン、⑧トゥグルウガン、⑨ディティグウガン、⑩クブラウガン、⑪ンディウガン、⑫ンダンウガン、⑬ウラヌウガン、である。このうち、ウヤバルウガンを加えずに総数

12とする考え方や文献もあるが、ウガンと名称がついている以上、ウガンのひとつとみなさなければならない。ウヤバルウガンは、後述するように、航海安全を祈願する〈旅御嶽〉としての機能を有しているのである。

与那国島にある御嶽は、『琉球国由来記』（1713年）に記載されていない。八重山の他の島々の御嶽は記載されているのに、なぜ、与那国島の御嶽だけ記載されなかったのか、今後大いに検討しなければならない。

与那国島の各御嶽にはスバカ（側司）がいて、トゥヤマウガンにはウブカ（大司）がいる。いずれもツカサ（神女。司）である。また、各御嶽にティディビと称する世話役がいる。御嶽に関わる祭祀集団はダマシンカという。ダマはヤマで、御嶽のことである。

以下、各御嶽の神名、由来、現況などについて記してみたい。

(1) トゥヤマウガン

与那国島にある12の御嶽を統括する最上位の御嶽で、祖納集落の西側に位置する。

嶽域はブロック塀で囲まれ、正面に鳥居がある。1948年10月6日に竣工した現在の拝殿は、柱・壁面がコンクリート製、屋根は瓦葺き。神棚の中央部に台付きの円形鏡があり、その斜め前方左右に香炉がある。左側の香炉の前にもう1個の香炉がある。花瓶1対、徳利1対があり、最前部には燈明台が左右に1対置かれている。神棚の前部に「真天照」、その上部に「蒙蔭」、上部左側に「島護靈」の扁額が掲げられている。神棚の柱右側に「無形与声体物不可遺」左側に「鬼神之為徳其盛矣乎」の聯が掲げられている。神棚の前に賽銭箱がある。

神名は、池間栄三著『与那国の歴史』には「チマガニン、ソウダルミ、ミマタ、ヌチ」とあり、富里康子氏のノート（以下、富里ノートとする）には「男神トマイウフヌシ」とある。

(2) ティウガン

祖納集落の西方、ナンタ浜に沿った小高い丘にある。嶽域の区画はなく、鳥居もない。コンクリート製の祠があるだけで、祠の中に香炉1基と花瓶1対が置かれている。

由来——松原寛司氏のご先祖にあたる方で、船持屋の仁屋という造船技術、航海技術にすぐれた方がおり、沖縄と唐の貿易船の船頭をしていた。ある日、航海中暴風にあい与那国へ漂着し、与那国にて結婚して

二男一女を産み生活をしていた。長男は松原仁王と名づけられ、父の航海、造船の技術を習得し後継をするまでに成長した。与那国と西表島との航海船の船頭として祖納堂に命ぜられて公事をするようになった。仁王はいききしているうちに西表租納の野底屋の娘と恋仲になり、仁王は1ヶ月に1回の航海にたまりかね、一夜のうちに西表島と与那国島を往復するようになった。そのことに気づいた姉のクヤマは弟の身をあんじて、ナンタ湾の海からサンゴ礁を取り寄せて供え、朝夕祈願をおこない、また自分の髪の毛を3本とり船の先に供え、航海の安全を祈りつけたとされる。それがティお嶽の始まりであり、現在も松原家によって祈願されている。松原家では先祖の遺品、角印、銅製の鏡、マガタマ、小刀を保管している。（『与那国町の文化財』）

神名は、『与那国の歴史』に「ニイヌティ・ヌチ」とある。

(3) トゥマイウガン

祖納集落の西方、田原川河口付近にある。嶽域の区画はなく、鳥居もない。コンクリート製の祠があって、香炉1基と花瓶1対が置かれている。かつて、アダンやユウナの叢中に祠があったが、2年前に祠の周囲が整備された。

松原家ゆかりの御嶽と伝えられる。航海安全を祈願する御嶽である。

神名は、『与那国の歴史』に「チマナギミテ・ヌチ」とある。

(4) ヌックウガン

島仲村遺跡の東北側、ティンダバナ崖上にある。嶽域は石垣で囲まれていて、入口は石垣が切れている。鳥居がある。奥に木造瓦葺きの祠がある。香炉1基と花瓶1対がある。航海安全を祈願する御嶽である。

由来——ヌックお嶽はトマイお嶽と兄妹関係にあり、ヌックお嶽の祈願が終った後、トマイお嶽を祈願し、松原家を祈願する。

(『与那国町の文化財』)

神名は、富里ノートに「女神ウブヌクイタムイ」とある。

(5) ウヤバルウガン

祖納集落の南西方、島仲村遺跡内にある。鳥居は崩壊している。嶽域は石垣で囲まれている。木造瓦葺の祠があるが、崩壊寸前である。祠の中に香炉1基、花瓶1対、湯呑碗1対が置かれている。

由来——昔、島仲村に大工屋と言う家があった。その主人はミンガサと言われ、村では屈指の有力者であった。ある日、八重山の蔵元からミンガサを亡き者にしようとして罪を問い合わせしがあった。身に覚えのないことではあるが仕方なく、順風を待って出発した。残された弟妹は大そう心配し、弟とともに家にビシリを立てて兄の無事を祈った。その妹の祈願がかなえられ、兄は無事帰ることが出来た。それから旅立ちのお嶽とされるようになり、旅に行くものの無事を祈願するお嶽となったのである。

(『与那国町の文化財』)

神名は、『与那国の歴史』、富里ノートと

もに記載されていない。

(6) アラガウガン

島仲村遺跡の西方に位置する。フクギ、ガジマル、ユウナ等の繁茂する森のなかにある。コンクリート製の鳥居があり、奥に柱・壁面がコンクリート製で屋根が瓦葺の祠がある。祠の中に香炉2基、花瓶2対が置かれている。

神名は、『与那国の歴史』に「チマナガデン・ヌチ」、富里ノートに「男神アラガ」とある。

(7) ナウンニウガン

島仲村遺跡内、アラガウガンの隣にある(約30m離れている)。嶽域の区画はない。鳥居はなく、コンクリート製の祠がある。香炉1基、花瓶1対が置かれている。

神名は、『与那国の歴史』には「ウヤバル・ブナダラ(女神)」、富里ノートには「女神トゥマイマディルガニ」とある。

(8) トゥグルウガン

航海安全を祈願する御嶽。空港の西方、トゥグル遺跡内にある。嶽域は石垣で囲まれている。鳥居がある。祠は木造瓦葺で、壁はない。香炉5基。

神名は、『与那国の歴史』には「トグルウリ・タビガン・ヌチ」とあるが、富里ノートには「ウブトグルニサンバルディティグバナ」とある。

(9) ディティグウガン

空港の北西側、サンバル村遺跡北西側に

ある。西方に桃原風葬跡がある。嶽域は石垣で囲まれている。祠の屋根はくずれおち、倒れかけている。香炉1基と花瓶1対が置かれている。

神名は、『与那国の歴史』に「ヒトミバナ・ブナダラ（女神）」、富里ノートに「女神クブラウリ」とある。

(10) クブラウガン

慶田崎遺跡の南側、久部良港の近くにある。嶽域の西側に小高い丘がある。東側道路沿いはブロック塀で囲まれている。鳥居がある。鳥居の手前にブロックで囲まれた拝所がある。そこには香炉はないが、中央に砂が盛られており、香炉の役目を果たしていると思われる。祠は瓦葺屋根で、壁はコンクリート製。香炉1基と花瓶1対が置かれている。

由来——異国船・大国船が与那国へ寄せてくるなと祈願する御嶽である。昔、久部良港沖に異国船が押し寄せてきた時、福元屋の祖先に知恵兼備の女性があり、その女性は敵の船にしのびこんで御祝いに来ましたとモチに似せた黒石と花酒をもってゆき、敵人に食べさせ、怪人のいる島だと思い逃げ帰ったとされる。今日では漁業がさかんになり、海上安泰、大漁祈願の神としても祈りつけられて来ている。(『与那国町の文化財』)

神名は、『与那国の歴史』に「イユンシリミサテ・トンダバニ・ヌチ」、富里ノートに「男神トゥンダハニ」とある。

(11) ンディウガン

比川集落の前方、上里遺跡内にある。コンクリート製の祠があって、中に香炉1基、花瓶1対がある。嶽域はユウナ、アダンが繁茂している。嫁取り婿取り、家庭円満を祈願する御嶽である。

神名は、『与那国の歴史』に「ハイミウブダギ・ウズムイフチ・ヌチ」、富里ノートに「女神ウズミウチルク」とある。

(12) ンダンウガン

航海安全の神をまつてある。「ホアン（帆安）ウガン」とも呼ばれている。

ナガト原遺跡の北方に位置する。嶽域は石垣で囲まれていて、入口は石垣が切れている。フクギやガジマル等が繁茂している。コンクリート製の壁、瓦屋根の祠がある。祠の中は3段になっており、最上部に一番大きな香炉1基、中段に香炉2基、下段に香炉2基が置かれている。

神名は、『与那国の歴史』に「ヌコイタムイ・ヌチ」、富里ノートに「男神ンミンク」とある。

(13) ウラヌウガン

祖納集落の東方、浦野遺跡内にある。東側に古い墓地群がある。航海安全、健康祈願の御嶽。嶽域は石垣で囲まれており、フクギ、ガジマル、リュウキュウコクタン等が生い茂っている。木造瓦葺の祠がある。祠に壁はない。香炉2基が置かれている。祠の後方に石灰岩が1個あり、その前に花瓶1対が置かれている。神名は、『与那国

の歴史』に「ウゴウラ、クウラ、ミミンク、タマンク・ヌチ」とあり、富里ノート「女神タマンク」とある。

[2] トゥニ（マチリトゥニ）

トゥニは、旧暦10月以後の庚・申の日から25日間にわたって行われる祭りくカンブナガ>の拝所である。(祭りの内容については、後述参照。) トゥニは、宗家、本家を意味する〈トゥニムトゥ〉と同義語である。

(14) クブラマチリトゥニ・・慶田崎遺跡の南側にある。久部良御嶽の北側に位置する。2か所あり、1か所は祭場の庭にコンクリートを敷き、後の1か所はガジマルの根元に拝所がある。

(15) ウラマチリトゥニ・・祖納集落の南東側にある。その敷地内に東公民館がある。

(16) ンディマチリトゥニ・・比川集落のンディウガンの西側、上里遺跡内にある(離島振興総合センターの東隣り)。周りにユウナ等が生い茂っている。

(17) ンマナガマイヌトゥニ・・島仲村遺跡内にある。前方、後方2か所にあって、前方をンマナガマイヌトゥニ、後方をンマナガツイヌトゥニといっている。石垣囲いの祠がある。

(18) ンマナガツイヌトゥニ・・島仲村遺跡内にある。石垣囲いの祠がある。

(19) ンダンマチリトゥニ・・与那原遺跡の西側にある。ブロック建ての拝殿がある。側に与那原家、祖納家のトゥニがある。

(20) 大俣家のトゥニ・・ウラマチリに関

わる。祖納(東)の大俣氏宅。

(21) 与那原家のトゥニ・・ウラマチリおよびンダンマチリに関わるが、おもにウラマチリに関わっている。ンダンマチリトゥニの東側にある。

(22) 祖納家のトゥニ・・ウラマチリおよびンダンマチリに関わるが、おもにウラマチリに関わっている。ンダンマチリトゥニの北東側にある。

(23) 後間家のトゥニ・・ンディマチリに関わる。比川の後間氏宅。

(24) 友利家のトゥニ・・ンマナガマチリに関わる。ンマナガマチリトゥニの西側にある。

(25) 島仲家のトゥニ・・ンマナガマチリに関わる。ンマナガツイヌトゥニの東側にある。

[3] ビディリ

ビディリは、靈石を祀る信仰習俗(八重山では屋敷神、田畠の神、牧場の神を祀る)の〈ビジュル〉と同義語である。

(26) ハイナグ・・カンブナガのンダンマチリで、ツカサラが祈願を行う拝所。ンダンマチリトゥニの北西側にある。

(27) ティラクンダ・・ンダンマチリで、籠りの翌日祈願を行う場所。ここでの祈願をもって、25日間にわたって行われた祭りくカンブナガ>は終了する。祖納集落の南東側にある。

(28) アガイハマティ・・旧暦8月に行われる祭り〈アラミディ〉〈ディバルバライ〉で祈願を行う拝所。また、旧暦9月に行わ

れるシティ（節祭り）のときに、集落内を獅子が巡回するが、はじめにアガイハマティに獅子頭を置いて祈願をし、それから巡回をするのである。

(29) ヌッカ（野底）・・旧暦8月に行われる祭り〈アラガトゥタガビ〉で祈願を行う場所。島仲村遺跡内にあり、ンマナガツイストゥニの東側にある。

(30) ナンタ（波多港）・・旧暦2月庚・亥の日に行われる祭り〈カドゥムン〉のときに行祈願を行う場所。祖納港北東の海岸よりにある。

(31) クンマ・・旧暦3月壬・亥の日に行われる祭り〈ッサバムヌン〉、旧暦4月初庚・未の日に行われる祭り〈フームヌン〉で祈願を行う場所。島仲村跡遺跡の東方、ハイナグの北側にある。

(32) ナンタハマ（波多浜）・・ッサバムヌン、フームヌンで害虫送りをするときに祈願をする場所。郵便局の後方、海辺よりにある。

(33) ンマバナ（馬鼻）・・旧暦5月の初己・亥の日に行われる祭り〈ドゥムヌムヌン〉で害虫送りをするときに祈願をする場所。馬鼻崎にある。

(34) ンマナガ（島仲）・・ッサバムヌン、フームヌンで祈願をする場所。島仲村遺跡の西方、ウヤバルウガンの西側にある。

(35) ムムタバル（桃田原）・・ッサバムヌン、フームヌンで祈願をする場所。祖納集落から空港へ通じる道路沿いにある（やや空港より）。

(36) フランダ・・旧暦2月と9月に行わ

れる祭り〈牛の願い〉で祈願をする場所。北牧場内、海岸よりにある。

(37) クブラ（久部良）ビディリ・・慶田崎遺跡南側、クブラマチリトゥニの近くにある。クブラマチリのときに祈願を行う場所。

(38) クブラ（久部良）バリ・・ッサバムヌン、フームヌンで祈願をする場所。久部良バリより海側の岩の上にあって、祈願は海に向かって行う。

以上、与那国島の祭場をみてきた。その結果、①祭場の多くが遺跡内か周辺に集中していること、②現在の村落レベルでみると、祭場は祖納に多いということが、今回の調査で明らかになった。分布地図を一覧すると瞭然である。

II. 年中行事

- ① 祖納の年中行事を主にまとめたものである。
- ② 行事は旧暦の日付である。
- ③ 毎月1日と15日に、十山御嶽において酒、塩、花米を献饌して、ツカサが村人の健康祈願と豊作祈願をする。ただし、その日が丑の日か酉の日に当たると、祈願は翌日行われる。
- ④ 祖納では、8月のハチガチマチリで1年の祭りが始まり、6月のウガンフトゥティで1年の祭りが終了する、という考え方があるが、本稿では1月から月順に整理してみた。

(1) 旧正月の願い

1月1日。十山御嶽において酒、塩、花米、料理（チンムリ、重箱盛り）、餅を献饌し、村人の健康と豊作祈願をする。また、我那覇家、東久部良家から供物の献饌をしたあと、両家でツカサ、公民館役員らが参加してシナクル（船香炉）の祈願（航海安全の祈願）をする。

(2) ウチニンアイ（牛の願い）

2月甲・子の日。北牧場内にあるビディリで祈願をする。家畜の繁盛祈願。

(3) ニガチマチリ（2月祭り）

2月。村人の健康祈願をする。

(4) タナンドゥリ（種子取祭）

2月初庚の日。各家で稻叢（シラ）の形をした握り飯（イハティ）をつくり、苗代に献饌する。そのとき、〈イニガダニアユ〉をうたう。

(5) カドゥムヌン

2月庚・亥の日。物忌み祭。虫害や雑草など稻の生育に支障を及ぼすことを忌み嫌い、豊作を祈願する。田植後、最初の物忌み。祖納港東北の海岸にあるビディリで、酒1升、花米、チンムリ2式、チディリブタ（重箱）、塩を献饌し、祈願をする。

ムヌン（物忌み）は虫祓い、豊作祈願の祭りで、田植から収穫の間に4回行う。

①カドゥムヌン、②ッサバムヌン、③フームヌン、④ドゥムヌムヌンがそれである。

(6) イスカバイ

4月1日。衣裳替祭。十山御嶽で酒1升、チンムリ2式、チディリブタ、餅2式、塩を献饌してツカサや公民館長らが祈願をする。

(7) ッサバムヌン

3月壬・亥の日。草物忌み。このころは田草取りの時期であり、田に雑草が生えないように、また、稻に害虫が付かないように祈願をする。酒2升、花米、塩、チンムリ2式、チディリブタを献饌する。

浦野、帆安一帯から害虫を採集し、これをクワズイモの葉に包んで海に流す。害虫を海に流すことを〈アンドの島送り〉といっている。小さな舟をつくり、それに乗せて海に流す。

ナンタ浜のビディリに祈願に来た者が、浜で頭を西に向けて寝て（これをスディという）、しばらくして一人が鶏の鳴き声を真似て、皆を起こすということをする。

(8) フームヌン

4月初庚・未の日。穂物忌み。このころは稻穂の出る時期である。ッサバムヌン同様、稻に害虫が付かないように祈願する。献饌の品々もッサバムヌン同様。

(9) ドゥムヌムヌン

5月初己・亥の日。物忌み。ムヌンの最後となる。ナンタ浜のビディリとサンバルにおいて、捕獲したネズミを神前に供え、害虫駆除の祈願をする。と同時に豊作祈願

をする。酒、花米、塩、チンムリ 4式、チディリブタ 4式を献饌する。

(10) アミウリ

6月。稻の収穫が完了したので、雨も降ってよい、風も吹いてよいとの祈願。アミウリが終らないと豊年祭（収穫祭）は行えない。

(11) ウガンフトゥティ（豊年祭）前夜の願い

6月壬午庚の日。ツカサ、各公民館役員が、十山御嶽で一晩籠って祈願をし、翌日の祭りの準備をする。酒、花米、チンムリ 2式、チディリブタ 8式を献饌する。

(12) ウガンフトゥティ（豊年祭、収穫祭）

6月。ウガンフトゥティは＜願解き＞の意味である。前年8月にガンカケ＜願掛け、祈願始め＞をし、この日にガン＜願＞解く。と同時に、今年の豊作の感謝と来年の豊作を祈願する。

朝、各公民館の旗頭を十山御嶽に集合させ、太鼓を打って（ガッサイという）気勢をあげる。ツカサらは十山御嶽の中で祈願をする。酒1升、花米、チンムリ、クバの葉に包んだ餅（クバ餅）、各品を13膳用意し、それを1回分として献饌し、13回祈願する。クバ餅950個、米15袋。

この日に、隔年で＜綱引き＞を行う。午後から離島振興総合センターの舞台で芸能公演が行われる。また、比川の前竹家、祖納島仲の田島家に伝わるミロクの面がこの

日に公開される。比川は女、島仲は男がミロクの面を被り、ミロクを中心に芸能が披露される。祖納の東と西はミロクがないので＜ウブンダー＞（翁）を中心に芸能が披露される。芸能公演終了後、全員で＜ドゥンタ＞を歌い踊る。

このドゥンタは、夜、十山御嶽の前庭で焚火をたいて、それを囲んで円陣をつくって踊っていたようである。

(13) ウガンフトゥティ翌日の願い

豊年祭が終了したことを各御嶽の神に伝える。十山御嶽でツカサらが行う。酒、花米、チンムリ、チディリブタ、クバ餅を献饌。その後、公民館役員らを中心に後片付けをする。

(14) アラミディ

8月初壬の日。水害、洪水を防ぐための祈願。また、昨年の古水を捨て、新水を入れ、豊作を祈願する。宇良部岳麓の田原川の川浚いをする。酒、花米、塩を献饌する。

(15) ディバルバライ

8月。アラミディの前3日、その後に行う。田畠への治水祈願である。アガイハマティ（ビディリ）で行う。花米、吸物3椀、チンムリ、チディリブタ、ダチヌウサイ、タティウサイ、サケクバン、ミティクバンの各品を7膳用意して献饌し、祈願する。

(16) シシの願い

8月己・亥の日。獅子頭に祈願をする。己・亥の日に、つまり60日ごとに年6回

行う。9月の己・亥の日には村人総出で、獅子頭を先頭に集落内の災厄・悪霊祓いをし、最後にナンタ浜にて災厄・悪霊を海に送り出す。酒、花米、チンムリ、チディリブタ、クパン、モチネを献饌する。

(17) ハチガチマチリ

8月。8月祭り。この1年間の健康祈願をする。ニンガチマチリ（2月祭り）と8月祭りはツカサの報酬として、各家から男子15歳以上の者に対して1人当たり3勺の米を徴収してツカサにあげる。ツカサはその米をそれぞれの守護神に献饌する。

(18) アラガトタガビ

8月。島に慈雨を降らせ、田畠の整地が順調に行われるようとの祈願を野底ビディリで行う。酒、花米、塩、ヒル（にんにく）、チンムリ2式、チディリブタ2式を献饌する。

(19) ウチニンアイ

8月初・甲の日。牛の繁盛祈願。東牧場で行う。酒、花米、塩、餅、刺身、ヒル、チディブタを献饌する。

(20) ダティグクイ

8月の戊の日。島の東部にある屋手久の頂上で航海安全を祈願する。花米、吸物3椀、チンムリ、チディリブタ、ダチノウサイ、タティウサイ、サケクパン、ミティクパン、クパンブ、グンナヌスを献饌する。

屋手久の頂にあったという遠見番でのろ

しを挙げて、島仲の中央に陣取っていたサカイソバに船の出入りを知らせた、という伝承がある。

(21) ドゥヌニガイ

9月。富貴・豊作祈願。ツカサ、公民館役員らが十山御嶽で世果報の祈願をする。酒、花米、餅、チンムリ2式、チディリブタを献饌する。

(22) シティ

9月の初己・亥の日に行う。節祭り。災厄や悪霊祓いを目的とする。その日はンバと称する葛を家の柱や庭の樹木に結わえておく。また、公民館役員らが家家を演じて祓いを行う。獅子は各字で保管されている。

離島振興総合センターの舞台（かつては十山御嶽の前庭で舞台をつくって）で、舞踊、棒踊、狂言、組踊、獅子舞などが演じられる。

(23) イスカバイ

10月1日。衣装替祭。十山御嶽で行う。献饌の品々は4月1日のイスカバイに同じ。

(24) トウンディ

新暦12月22、23日ごろ。冬至。十山御嶽で健康祈願を行う。酒、花米、餅、チンムリ2式、チディリブタを献饌する。

(25) カンブナガ

10月以後の庚・申の日から始まり、25日間にわたって行われる。献饌の品々は酒、

ミティ、花糸、吸物3椀、スウ、チンムリ、生魚など。25日間で①クブラマチリ、②ウラマチリ、③ンディマチリ、④ンマナガマチリ、⑥ンダンマチリが繰り広げられ、そのなかで神器をもって舞うくタマハティー>が行われる。

タマハティーは、古式をよく残し、民俗学的にも芸能史学的にも注目すべき芸態である。池間栄三著『与那国島の歴史』には、タマハティーについて「神歌が始まると伴に、女群は体をぶるぶる震わし、眼をすえて、神器を打ち鳴らし、打ち振り、天を仰ぎ、周囲を脾げいしての大乱舞が行われる。この様は神々しいと云うよりは、むしろある女群を思わしめるものがある」と記している。さらに神器の所有者と種類を書いている。

大俣屋 玉、弓柄勾、槍、鼓、
鐘（スンク）

野底屋 玉、算盤、秤、櫛、
小鼓（ンミンク）

祖納屋 刀、三又旗、薙刀、鎌、鼓、槍

天底屋 玉、三又旗、薙刀、三ツ竹、
三又モリ（カギダン）、三味線、
鼓、槍

島袋屋 刀、鎌、木馬、三ツ竹、槍

友利屋 玉、木馬、風車、槍、鼓

後間屋 櫛、槍、玉、鏡、弓、棒、鼓

小底屋 刀、鼓

長若屋 秤

また、この祭り期間中は、4つ足もの（豚、牛など）を食することは禁止されている。もっともツカサらは、8月から肉食

をとらず精進する。与那国島では、カンブナガだけでなく、御嶽で行われる祭りのときは、すべて4つ足ものは禁じられており、4つ足ものを食した者は、鳥居をくぐることはできない。

カンブナガはツカサら神職者、公民館役員、有志らが参加する。祭場は<トゥニ>とよばれる拝所が中心となる。それぞれのマチリは次のように行われる。

①クブラマチリ

庚・申の日。 カンブナガの第1日目。久部良公民館主催。外敵を防ぐこと、異国人・大国人（いずれも海賊のこと）退散の祭りである。その昔、船でやってきた賊が、島の食料や家畜を略奪し、婦女子に暴行を加えるなど横暴をきわめていた。島の人たちは大きな草履をつくり、海に流して、この島にはとてつもない巨人がいるのだ、ということを示して、外敵を防止した。以後、このような災難にはあっていない、という伝承がある。

②ウラマチリ

クブラマチリの翌日、辛・酉の日に行う。東公民館の主催。牛馬の繁盛を祈願する祭りである。昔、宇良部岳に黒い怪物（牛）がいて、誰も近付けなかったが、野原家の祖先がこれを捕らえ、農耕に利用したことから、島の人たちがそれにならった。野原家の先祖は拝所を建て、牛馬の繁盛を祈願した、との言い伝えがある。

祈願後、祖納家で玉、鼓、刀、槍などの神器をもって神舞を舞う。

③ンディマチリ

ウラマチリの3日後、甲・子の日に行われる。嫁とり婿とり、家庭円満、人びとの幸せを祈願する。比川公民館主催。祭りは早朝からトゥニで行われる。後間家で玉、弓、鏡、槍、鼓などの神器を持って神舞を舞う。

④ンマナガマチリ

壬・午の日に、島仲公民館主催で行われる。五穀豊穫の祈願である。島仲村跡のマイヌトゥニ、ツイヌトゥニなどの祭場で行われる。かつては、神器を持っての神舞が演じられたが、ここ十年来は演じていないようである。

⑤ンダンマチリ

ンマナガマチリの翌日、癸・未の日に、西公民館主催で行われる。航海安全を祈願する。帆安（ホアン）祭りともいう。

朝、ハイナグと称する祭場で、ツカサは頭に蔓草を輪にして被り、宇良部岳に向かって祈願をする。ミドウドウ山のトゥニへ行く。近くには与那原家、祖納家のトゥニもある。神へ魚をささげる儀式、ウプダラ（大皿）の儀式、ナカダラ（中皿）の儀式などが行われる。献饌の品々を並べ、クバの葉でつくった香炉に線香を立てて祈願をする。この日与那原家の神器の神舞が舞われていたが、3年前から演じていない。

宴会では、旅果報の民謡＜トゥグルダキディラバ＞が歌われる。また、各マチリとも参加者全員が手と手をとり、輪になって＜ドゥンタ＞を歌い踊るが、特にンダンマチリでは、夜、松明を囲んで演じ、祭りの

気分を盛り上げる。

トゥニで一晩籠りがある。ツカサ、ティディビ、公民館役員、有志らが籠る。翌朝、トゥニ、ハイナグでの祈願に続いてティラクンダと称する祭場で祈願。ここでの祈願をもって、25日間の祭りは終了する。公民館役員はドラ、太鼓を打ち鳴らし、村人にカンブナガの全ての行事が終了したことを知らせる。

以上が主な年中行事である。その他、不定期ではあるが、9月に＜シティガン＞（結願祭）も行われおり、舞台芸能が披露される。

なお、本調査では次の方がたにお世話をなった。厚く御礼を申しあげたい。

富里康子氏（大正5年生）

宮良保全氏（大正7年生）

宮良 節氏（大正10年生）

与那覇仁一氏（昭和31年生）

◆参考文献

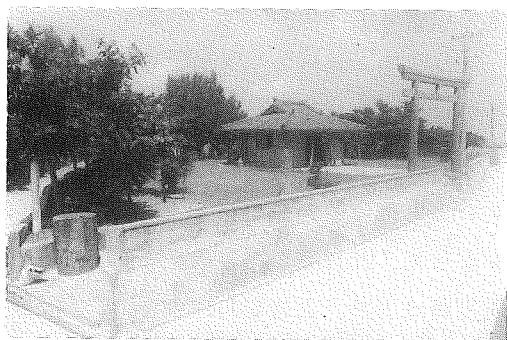
池間栄三著『与那国歴史』 1972年

富里康子ノート

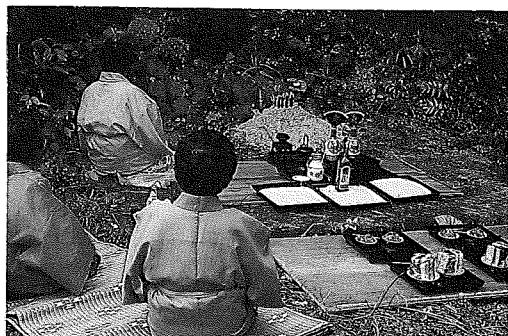
与那国町教育委員会編『与那国町の文化財』
1979年

沖縄県教育委員会編『御嶽』御嶽信仰習俗
分布調査〈II〉—宮古諸島及び八重山諸島— 1985年

知念勇「与那国島の遺跡」『沖縄県立博物館総合調査報告書VI』所収 1989年



トゥヤマウガンの全景



カンブナガの〈ンダンマチリ〉に、ハイナグ
(ビディリ) で祈願をするツカサたち。



ヌックウガンの祠



カンブナガの〈ウラマチリ〉に、神器の刀を持って神舞を舞う祖納家の女。
(写真は大城弘明氏提供)